

様式1

## 令和7年度 学校評価表

学校教育目標		確かな力で未来を拓く教育の創造
a ミッション	小中連携の推進による主体性と学び力を育む教育の創造	a ビジョン 夢ひろがる地域の学校 ・明日も行きたい学校 ・会いたい友達や先生 ・受けたい授業

尾道市立御調西小学校

評価計画					自己評価					学校関係者評価		改善計画		
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 達成率	1月末 達成率	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価	l コメント	m 改善案	
											イロハ			
夢ひろがる地域の学校・明日も行きたい学校・会いたい友達や先生・受けたい授業	基礎学力の定着	小中連携して取り組む基礎基本の確実な定着	○授業改善による学力の定着 ・学力調査の結果分析から小中で取り組む内容を決め全学級で実施する。	○国語・算数の単元末平均点 ・低学年90点以上 ・中学年85点以上 ・高学年80点以上	90点 85点 80点			国 94点 89点 89点 算 97点 85点 88点	国 104% 105% 111% 算 108% 100% 110%	国 A A 算 A A	6	1	・適正だと思う。 ・総合的に積極的に取り組み、生き生きと活動している様子が印象的でした。個々の様子に配慮することでも大いに役立ててよいと思います。 ・基礎学力の定着は本当に感謝の心で。密着度の高い把握しているか。 ・各学年学力底位の児童に対して、その学年でつづける学力を反復学習等につなげる必要であると思う。計算ドリルや算数の問題を抽出したら、次の日にミニテストで確かめ等でも実施できよう。実践に關しては、蓄積技術を取り入れてみてはどうか。 ・「自信をもっていない」「苦手意識がある」といった児童にはゆるやかな成長を求めたいし、個別の丁寧な肯定的評価を期待する。 ・小学校は中学年もあるので、学年ごとに意が出ないよう組織力を高め、授業活動の推進も効果を示したのかもしれない。 ・アンケートを取る時や授業中の担任の声かけや児童の反応は必ずする。苦手意識のある児童の扱い。できるところをタイムリーに伝えてあげるとよいと思う。 ・単元末テストのレベルは自分たちですが、自己評価の数字と中学校での標準学力の必要人数に差があるのは何なのかと感じています。 ・達成度は良いようですが、教師の側から評価された結果はどうでしょうか。児童アンケートの数字だけで評価するのが正しいのでしょうか。	児童の学力定着・向上においては、引き続き日頃の授業を充実させたり、いきいきタイムを活用したりする。また、4月に実施した全国学力学習状況調査の成果と課題の分析をもとに学年ごとに応じた授業改善を行い、日頃の授業からどう改善していけばよいのか明確にしていこう。同時に、教師アンケート等も考え、信頼性を担保できるようにしていく。その際、小中連携推進協議会より中学校区で取り組むことを、教員が日常的に意識できるように可視化する。表現力の向上においては、教員がペアワークやグループワークなど小集団で話し合う機会を増やすなど指導の中で工夫していきたい。また、児童の発言を大切にするとともに前進意を促すために発言を簡潔に手だけでなく聞く力の育成を図ったりしながら話し手だけでなく聞き手も育てていきたい。さらに、NIEに関する取組も充実させることを通して、さらなる児童の学力定着・表現力の向上へとつながっていきたい。
			○生活科・総合的な学習の時間を中心とした表現力の向上	○「友達や先生の前で自分の意見を伝えることに自信がある。」と答える児童の割合 肯定的評価80%以上(学期末) ※評価指標を学期末アンケートに入れる。	80%	81%		101%	A	○今年度から研究主題として取り入れている表現におけるアンケートでは、目標の80%を達成することができた。生活科・総合的な学習の時間を中心に、話し合いや作り作り、新聞づくり、学習内容の発表など様々な方法で表現活動を行ってきた成果だと考える。しかし、それぞれの学年で数人の児童が自分の意見を伝えることに自信をもてず、苦手意識があることが分かった。否定的評価を行った児童のほとんどが「まったく当てはまらない」ではなく、「あまりあてはまらない」を選択していたことから、改善の余地が大いにあり、教員の工夫や支援によってより良い方向へ変えていく可能性があると考ええる。				
			豊かな心と体の育成	自己有用感の向上	○学級や学校内で役割を持たせ、協働して活動する機会の設定。 ・1～3年 係活動等 ・4年 委員会活動等 ・5～6年 委員会クラブ活動、縦割り活動、学校行事等 ○職員全体で、児童が当たり前に今でできている行動を認め価値付ける(風土の醸成)。	○自分の活動がみんなの生活に役立っていると感じる児童の割合 肯定的評価90%以上(学期末)	90%	95%		106%			A	○達成度が100%を上回り、多くの児童が自己有用感をもつことができた。昨年度から引き続き高い状態が維持できている。一方で、そうした実感をもちにくい児童や、役割を得て頑張っているにも関わらず低くなっている児童もいる。そのような自己有用感を感じられていない児童への評価・価値づけを意識しながら各取組を進めていく。月1回アンケート後のフォローの声かけをすることを徹底する必要がある。
基礎的な運動体力・運動技能の定着	○体育の授業を中心に、単元に応じて個人の目標値と自分の成長を可視化できる機会を設定	○「目標に向かって取り組み、自分の目標を達成できた、成長を感じられた。」と答える児童の割合 肯定的評価90%以上(学期2回)		90%	98%		109%	A	○運動会と水泳授業において、「目標に向かって取り組み、自分の目標を達成できた、成長を感じられた。」という児童の肯定的評価は、達成度が100%を上回り、多くの児童が達成感を得ることができた。運動会については昨年度による体育の授業の実施や、ワークシート等の活用により、子ども達が自らの課題を把握し解決に向けて取り組むことができた。水泳授業においては、昨年度の記録を意識させながら、泳ぐ時間を長くし運動量を確保したことがアンケート結果につながったと考える。2・3学期も、児童が達成感を得られるように工夫していく。	ワークシート等の活用によるめあての設定と取り組みの充実により、子ども自身が成長を実感できるようこれからは取り組み、自己有用感、学習意欲を高めたい。目標を達成できるようにするために、時折取り組みではなく日々の授業で継続的に取り組む。				
信頼される学校	地域への愛着を持つ児童の育成	○コミュニティ・スクールのよさを生かした教育活動の実施	○「地域と関わりながら、地域のことを学ぶことが好き。」と答える児童の割合 95%以上(学期末)	95%	95%		100%	A	○地域の方々の協力を得て、生活科や総合的な学習の時間、行事を充実させることができた。その結果、児童アンケートでは、95%の児童が肯定的回答をして目標値と同じ程度となった。否定的回答の児童の理由は「御調のことをあまり知らない。」「自然はいいけど、お店がないから。」といったことであつたので、個別的なアプローチも行った。2・3学期も継続して地域の方々の協力を仰ぎ、地域のよさを生かす教育活動を推進する。	8	1	・適正だと思う。 ・地域と密着して実施する授業が充実してきているように思えます。 ・西の島のよいところは、地域の味があり、いきいきと暮らしている。これらを生かして活用していきたい。 ・この結果をうれしく思っています。否定回答の児童は地域との関わりが少なかったからか。 ・教職員が積極的に地域のことを知るようとしていく。児童はそれを感じていると思う。児童の姿、自分の考えに教師の授業を参考に、地域のよさをもち活用して共に児童を育てていってほしい。 ・継続的に地域学習をさせていると聞きます。ありがたうございます。また、各地域のよさを自分の価値観で特定評価されるのだろうか。 ・児童が地域から多くのことを学んでいるのが楽しみです。組織を強化していきたい。 ・取組まれたアンケートの中で質問ある児童に対して答えておられます。回答をもち前に進んでください。 ・児童が地域と密着して活動している。地域を愛する気持ちで活動している。各児童が興味をもって取り組む環境づくりに努めたい。 ・教職員の方々のお仕事は過酷だと思えますので、100点満点を目標として頑張りたいと思います。	2学期以降も、地域へ進んで出向くことも、学校へも足を運んでいただくようにする。地域の人材を活用することにより、本校の教育活動を充実させることにより、子ども達の成長につけていくことができるようにする。個別のアプローチを重ねつつ地域と関わることで、地域のことを積極的に学ぶ児童が増えるようにしていく。	
	業務改善による働き方改革の推進	○業務分担の見直し・進捗調整と業務の手助け	○「私は、日々の業務の中で充実感を得られている。」と答える職員の割合 80%以上(働き方改革アンケート)	80%	94%		118%	A	○日々の業務の中で充実感を得られたとする職員が、目標値の80%を上回ることができた。組織的に業務を推進することができたことが肯定的回答の一因であると思われる。一方で、「私は、教職員間で相談したり業務の手助けをしたりするなど、互いに頼みやすい雰囲気があると感じている。」の項目で昨年度と比べても数値が低かった。風通しのよい職場作りをより意識することで、職員の充実感の向上に努めたい。			夏季休暇中に行った働き方改革研修にあったように、業務に関する話はもちろん経験等も織り交ぜることで、職員同士の関係性をより向上させていく。頼みやすい雰囲気づくりを行うことで風通しのよい職場づくりを職員全体で行い、職員が充実感を得られるように心がけていく。		
【取組評価】 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60														
												【外部評価】 イ:自己評価値適正である。		

【取組評価】 A: 100% (目標達成) B: 80% (ほぼ達成) &lt; 100 C: 60% (もう少し) &lt; 80 D: (できていない) &lt; 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。 オ: 自己評価は適正でない。 ハ: わからない。

方策進行管理シート

様式2

令和7年度 尾道市立御調西小学校

	目標達成のための方策	活　　動	4月			5月			6月			7月			活動 達成度	方策 達成度	取組 評価
			目標数			目標数			目標数			目標数					
			達成数			達成数			達成数			達成数					
確 かな 学 力 の 育 成	○授業改善による学力の定着 ・学力調査の結果分析から小中で取り組む内容を決め 全学級で実施する。	○国語・算数のテスト平均点 低学年90点以上　中学年85点以上　高学年80点以上 （毎月）	90	85	80	90	85	80	90	85	80	90	85	80	国 94点 89点 89点 算 97点 85点 88点	国 104% 105% 111% 算 108% 100% 110%	国 A A A 算 A A A
			- 100	92 87	92 91	99 98	82 91	88 86	92 94	90 84	88 92	91 94	90 79	87 83			
			- 111	108 102	115 114	110 109	96 107	110 108	102 104	106 99	110 115	101 104	106 93	109 104			
	○標準学力調査 ・前年度の全国平均との差を上回る (1年生は、全国平均＋5) ※国・算×6学年（12項目）のうち75%(9項目)以上																
	○生活科・総合的な学習の時間を中心とした表現力の 向上	○「友達や先生の前で自分の意見を伝えることに自信がある。」 と答える児童の割合 肯定的評価80％以上（学期末） ※評価指標を学期末アンケートに入れる。										80			81%	101%	A
												81					
豊 かな 心 と 体 の 育 成	○学級や学校内で役割を持たせ、協働して活動する機 会の設定。 ・1～3年　係活動等 ・4年　委員会活動等 ・5～6年　委員会クラブ活動、 縦割り活動、学校行事等 ○職員全体で、児童が当たり前に行っている行動を 認め価値付ける（風土の醸成）。	○自分の活動がみんなの生活に役立っていると実感できる児童の 割合 肯定的評価90％以上（学期末）	90			90			90			90			95%	106%	A
			93			94			96			97					
	○体育の授業を中心に、単元に応じて個人の目標値と 自分の成長を可視化できる機会を設定	○「目標に向かって取り組み、自分の目標を達成できた、成長を 感じられた。」と答える児童の割合 肯定的評価90％以上（学期2回）	運動会 90			水泳 90									98%	109%	A
			97			99											
地 域 と 共 に 歩 む 学 校	○コミュニティ・スクールのよさを生かした教育活動 の実施	○「地域と関わりながら、地域のことを学ぶことが好き。」と答 える児童の割合　95％以上（学期末）										95			95%	100%	A
												95					
	○業務分担の見直し・進捗調整と業務の手助け	○「私は、日々の業務の中で充実感を得られている。」と答える 職員の割合　80％以上（働き方改革アンケート）										80			94%	118%	A
												94					

【取組評価】 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60